

侵入特定外来生物バスターズの活動

1 侵入特定外来生物バスターズについて

流通のグローバル化などにより侵略的外来種の侵入リスクが高まる中、侵入初期の防除を徹底するため、特定外来生物の中でも人体または経済への影響が大きいオオバナミズキンバイ、クビアカツヤカミキリ、ヒアリの3種を対象に、平成30年5月に「侵入特定外来生物バスターズ」を立ち上げ、対象種ごとに「分隊」を結成しています。

2 それぞれの分隊の活動

(1) オオバナミズキンバイ

中南米原産の水生植物で、驚異的な繁殖力で水面を覆い尽くし、在来生物の生息や漁業、人の暮らしへ悪影響を与えます。琵琶湖で広範に繁殖しており、平成29年頃から鴨川でも確認され始めたため、鴨川で活動する各種団体や行政、専門家等で、令和元年8月25日に五条大橋から塩小路橋までの約1km間で駆除活動を行いました。

活動は、鴨川を美しくする会、一般社団法人鴨川流域ネットワーク、府が共催で行い、関連団体や学生団体、ボランティアなど120人が参加しました。今後も様々な主体との協働のもと、継続的に駆除活動を進めます。



駆除活動の様子

(2) クビアカツヤカミキリ

サクラ、ウメ、モモなどバラ科の樹木を食害する昆虫で、全国各地で被害が拡大しており、近畿地方では大阪府内で甚大な被害が出ています。令和元年には奈良県、三重県、和歌山県でも新たに被害が確認されており、府への侵入リスクは非常に高いと言えます。

本種が食害する樹木は、街路樹、公園、河川敷、学校、農地、社寺など府内に偏在し、関係者は極めて多岐にわたります。侵入した際に被害の拡大を防ぐため、行政や社寺、学校、造園業者などを対象とした研修会を開催しています。引き続き周知を図るとともに、体制の構築と監視の強化に取り組んでいきます。



(3) ヒアリ

国内では平成29年5月に兵庫県で確認されて以来、各地の港湾や物流関係事業所などで確認されています。府内では平成29年10月に1件確認されましたが、即日駆除されました。令和元年9月～10月には、東京湾青海埠頭で計50個体以上の有翅女王アリ（これから巣を飛び立ち繁殖行動を始める個体）が発見され、専門家からもヒアリの定着を危惧する声が上がっています。

現在、行政や専門家、第一発見者となる可能性の高い運輸業関係者を中心に確認時の通報・情報共有や緊急防除の体制が構築されています。令和元年度は「京都府ヒアリ・アカカミアリ相談専用ダイヤル」の運用を開始し、夜間・休日を含めた24時間体制の対応を行っており、今後もヒアリの侵入・定着阻止に向けて、より一層の取組を進めます。



ヒアリ研修会の様子